



ショートコメント

★★★

Data 2024-28

変な家

2024年/日本映画
配給：東宝/110分

2024 (令和6) 年3月23日鑑賞

TOHOシネマズ西宮OS

監督：石川淳一
 脚本：丑尾健太郎
 原作：雨穴『変な家』飛鳥新社刊
 出演：間宮祥太郎/佐藤二郎
 /川栄李奈/長田成哉/DJ 松永 (Creepy Nuts) /瀧本美織/根岸季衣/高嶋政伸

👁️👁️ みどころ

「あなたには、この間取りの異常さがわかりますか?」「あなたは、この秘密を覗く勇気がありますか?」をキーワードにした、『変な家』と題する原作小説が大ヒット中!そのため、それを映画化した本作も、ポップコーンを食べながら鑑賞する若者たちで、ほぼ満席だ。私が「これは必見!」とお薦めしている、中国映画『流転の地球』(23年)はガラガラなのに、この差は一体ナニ? 佐藤二郎扮する、「ミステリー愛好家の変人設計士」と同じように、私も一見して、「変な家」の「間取りの異常さ」に気がついたが、それが一体どんな映画になるの?そう思っていると、かつて人気を集めた横溝正史の『金田一耕助シリーズ』と同じように、何とも“おどろおどろしい物語”が展開していくことに!

ああ、怖かった。しかし、なぜ今ドキ、こんな映画が・・・?

—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————

◆大竹しのぶが主演した、森田芳光監督の『黒い家』(99年) (『シネマ1』87頁)「自殺でも保険金は出るのか?」をキーワードにした。保険金詐欺をめぐる恐ろしくも、面白い映画だった。それを韓国版でリメイクした『黒い家』(07年) (『シネマ19』88頁)も、『映画と法律』のネタとしてはもちろん、法科大学院の教材として最適!法律を学ぶ人たち必見の映画として、超お薦め!」の映画だった。

◆それに対して、『変な家』と題された本作の原作は、現在本屋で平積みにされている、雨穴氏による同名のベストセラー小説だ。私は同作を本屋で“立ち読み”したから、その内容は概ね把握できている。

「あなたには、この間取りの異常さがわかりますか?」「あなたは、この秘密を覗く勇気がありますか?」の見出しが躍る本作のチラシには、ある一軒家の1階と2階の「間取り」が描かれているから、本作のチラシは実にユニークだ。

◆私は弁護士登録直後に、住居用の一軒家を購入し、事務所用のビルの一室も購入し、その後両者とも次第に大きなものにしていった。また、弁護士業務の中でも、とりわけ破産管財人として多数の不動産を処理したから、不動産を見る目にかけては、本作で佐藤二郎が演じた、“ミステリー愛好家の変人設計士”である栗原以上の自信を持っている。

栗原は本作の主人公である、“雨男”の名前で活動する、オカルト専門の動画クリエイター・雨宮（間宮祥太郎）から相談を聞いた、ある一軒家の間取りの不可解な点をいくつか指摘したが、それは私も全く同じだ。つまり、私の目にも、この一軒家は、1階も2階もかなり変なことが、栗原と同じように一目瞭然だ。

本作は若者に大人気で、同じ日に観た中国映画『流転の地球』（23年）はガラガラだったが、本作は満席。しかし、ポップコーンを食べながらスクリーンを凝視している、今時の若者たちには、きっとこの間取りの不可解さは栗原の説明を聞くまでわからないだろう。

◆ジョディ・フォスターが母親役で主演した『パニックルーム』（02年）（『シネマ2』162頁）は、4階建て、エレベーター付きの家の中に設置された、“パニックルーム”をめぐる面白い映画だった。それに比べれば、本作の一軒家は小さいが、雨宮が“一連の疑惑”を動画に投稿したことによって、「あなたには、この間取りの異常さがわかりますか？」「あなたは、この秘密を覗く勇気がありますか？」と書かれている通りの事態になっていくので、そこに注目！

『変な家』の“変な間取り”を見て、栗原が導き出した、ある恐ろしい仮説とは？そして、雨宮の動画を見て、「この家に心当たりがある」と連絡してきた女性、宮江柚希（川栄李菜）が語る何とも“おどろおどろしい真実”とは・・・？

◆今時の若者は“おどろおどろしい”という形容詞を聞いても、何のことかさっぱり分からないかもしれない。これは金田一耕助探偵が活躍する、横溝正史の人気シリーズ小説たる『八つ墓村』『獄門島』『悪魔の手毬唄』等のキーワードだ。

しかして、本作中盤からは、宮江柚希と共に、雨宮と栗原が、金田一耕助とは似ても似つかない、“にわか探偵”になって、何とも奇妙かつ“おどろおどろしい事件”を解明していくことになるので、それに注目！

2024（令和6）年3月27日記